

瞑想、迷想

今、思いつくままに あるがままに

善龍寺 小谷善親

先代住職の父がお浄土へ旅立ったのは40数年前のことです。父は太平洋戦争が終わり復員し、21歳の頃から28年間住職を勤めました。けれども、6年ほど病気と闘いましたが勝てませんでした。

お念仏にくるまれて、齢68を迎えました。それは、父や祖父、そして曾祖父・高祖父の年齢をとうに越えてきたのです。

ある時、「生は偶然 死は必然」という書を目にしました。それは当然のことですが、なかなか簡単にはすくい取ることができませんでした。常に、生に執着している自分を見つけてしまうのです。

アンチエイジングという言葉があります。老化防止・抗老化のことですが、年齢を重ねると次第に若い頃と比べ、多くの点で変化が起きてきます。私自身もそうでした。いつ頃であったかは記憶にはありませんが、髪の毛が少しずつ白くなってきて、黒く染めることにしました。しばらく続けましたが、皮膚のかゆみや周囲の汚れなどで、止めてしまいました。それからは全体が白くなり、髪の毛も少なくなりました。それに加えて、鏡を見れば皺も増え、シミも多くなりました。体の節々も痛くなり、「全く年はとりたくないものだ。」美しく生きたい。」と多くの人を感じていると思います。しかし、生きているという事は確実に浄土へ一步一步と向かっているのです。「あるがままに生きる」ことは簡単なようで実に難しいものとなっています。

「諸行無常」「諸法無我」人に説くというよりも自分自身についての解決が問題となっています。

蓮如上人の「我やさき 人やさき きょうともしらず あすともしらず」が耳に残ります。

「生」に執着している毎日です。

合掌